部　活　動

部活動は、本校の教育活動の一環として行うもので、保護者の協力と理解を得て、生徒の体育・文化活動を促進し、体力の増進や豊かな情操を培うことを通して、中学生としての健全な心身の発達を図っています。全校の約９割の生徒が参加し、熱心に活動しています。

コーラス部
第89回ＮＨＫ全国学校音楽コンクール長崎県大会　銀賞（第2位）
第77回九州合唱コンクール長崎県大会　金賞
第77回九州合唱コンクール　銀賞

美術部

吹奏楽部
第67回長崎県吹奏楽コンクール県南地区大会　金賞（県南地区代表）
第67回長崎県吹奏楽コンクール県大会　優秀賞
第49回長崎県アンサンブルコンテスト　金賞（県代表）
第48回九州アンサンブルコンテスト　銀賞

野球部
R3　長崎市中総体　ベスト8
R4　長崎市中総体　ベスト8

サッカー部

バドミントン部
R4　長崎市中総体　男子シングルス3位
R4　長崎市中総体　男子シングルス4位　（九州大会出場）
R4　長崎市中総体　女子シングルス3位
R5　長崎市中総体　女子団体3位
R5　長崎市中総体　女子シングルス優勝

新体操部
R4　長崎市中総体　団体第3位
R4　長崎県中総体　団体第3位
R5　長崎市中総体　団体第3位

卓球部
R2　長崎市中総体　男子団体ベスト6
R2　長崎市新人大会　男子団体第3位
R3　長崎市中総体　男子準優勝
R3　長崎県中総体　男子第3位
R4　長崎市新人大会　男子ベスト8

バスケットボール部
R2　長崎市新人大会　男子ベスト8
R3　長崎市中総体　男子準優勝
R3　長崎県中総体　男子第3位
R4　長崎市新人大会　男子ベスト8

ソフトテニス部
R4　長崎市中総体　男子個人3位

陸上競技部
H30　第45回全日本中学校陸上競技選手権大会　女子走幅跳3位
H22～R5　長崎市中総体　男女総合優勝14連覇
R4　長崎県中総体　女子総合優勝　男子総合準優勝　他
R4　第44回九州中学校陸上競技大会　女子総合優勝　他
R4　第49回全日本中学校陸上競技選手権大会　女子4x100mR　7位

硬式テニス部
R4　長崎市中総体　女子　団体優勝　シングルス優勝　3位
ダブルス優勝　準優勝
R4　長崎県中総体　女子　団体優勝　シングルス3位　4位
R4　九州中学校テニス競技大会　女子団体準優勝　（全国大会出場）
R4　長崎市中総体　男子　団体準優勝　シングルス3位
ダブルス3位
R4　長崎県中総体　男子団体準優勝　（九州大会出場）
R5　長崎市中総体　男子　団体優勝　ダブルス優勝
R5　長崎市中総体　女子　団体優勝　シングルス3位
ダブルス優勝　3位

女子バレーボール部

駅伝部
H28　長崎市中総体女子優勝　県中総体女子優勝
（九州・全国大会出場）
H30　長崎市中総体　女子優勝　県中総体女子３位
R元　長崎市中総体　女子優勝　県中総体女子８位
R2　長崎市中総体　女子優勝　県中総体女子４位
R3　長崎市中総体　女子優勝　県中総体女子準優勝
（九州大会出場）
R4　長崎市中総体　男子優勝　女子優勝
長崎県中総体　男子10位　女子３位

卒業生からの一言

楠本　美英さん
（長崎県立長崎北陽台高等学校１年）

「附属中学校で過ごせた３年間は宝物。」高校生となった私が毎日のように思うことです。附属中学校で過ごした３年間は、とても充実していて、たくさんのことを学べました。今後の自分を支えてくれることは間違いありません。

「今日は、附中が私の誇り　明日は、私が附中の誇り」。これは校長先生が私たちに与えてくださったことばです。私の中学校生活は、個性豊かな仲間と情熱あふれる先生方から刺激を受け、温冒を感じるような日々、一日たりとてありませんでした。附属中学校は男女の仲が良く、仲間と共に励まし合いながら困難を乗り越えます。そんな切磋琢磨し合える中間に出会えたことが「私の誇り」となりました。また、授業や行事の中で自分の得意分野を発揮できる場面が必ずあります。だから、「明日は私が附中の誇り」となるのです。もしも今、「個性を発揮できる場所がない」「自分の個性を見つけられない」と感じている人がいるならば、附属中学校には必ず輝ける場所があると伝えたいです。部活動では多くの部が良い成績を収めています。生徒会の役員には毎年、多くの人が立候補し、活動を盛り上げています。私も、部活動の主将、学級委員、駅伝部員など、成長するのにたくさん挑戦しました。もちろん、たくさん失敗し、悩み、もがきました。そんな時に、ふと周りを見ると、いつも、自分と同じように多くのことに挑戦している仲間がいました。仲間に支えられ、失敗を自分の成長につなげられる環境があったことに感謝しています。

また、私たちの３年間には、コロナ禍で多くの制限がありました。附中祭「春」や「秋」の行事でも多くの制限がありましたが、その中で、どう自分たちの良さを生かすか、どう自分たちで楽しむかを模索した３年間でした。分散して練習したり、マスクをしての練習だったりしたため、特に、コミュニケーションを活発に行うことが重要でした。

そんな生活の中で身につけたことの一つに「言葉」に対する考え方があります。言葉は自分と相手をつなぐ架け橋になることもあれば、刃物になることもある。だからこそ、一人一人が自分の中にある言葉を磨くことで、語り合い、高め合う集団となれるのです。ぜひ、後輩の皆さんにも品性あふれる言葉のキャッチボールを受け継いでほしいです。

最後に附属中学校は、真面目であることが大切にされる学校です。これは一見、当たり前のことのように捉えられるかもしれません。しかし、私は、附属中学校で真面目であることを仲間たちに尊重してもらって初めて、これが当たり前だということの価値に気づかされました。こんなに他を認め、自分を磨くことができる学校は他にないと思います。

このように、附属中学校は誰一人取り残さず、皆で歩みを進めていく学校です。スタートラインが違っても、何も心配することはありません。人生一度きりの中学校生活を附中で送るならば、青春を謳歌し、ことばで日常を彩り、人生の糧になる３年間になることに間違いなしです。あなたも附属中学校で青春しませんか。皆さんの輝く未来を期待しています。

水﨑　晨陽さん
（長崎県立長崎西高等学校１年）

「母校が附属中学校でよかった。」卒業した今、心からそう思います。卒業式で全員合唱した附中讃歌に心震えたのは、附属中学校での３年間が最高の日々であったからだと確信しています。

私たちは、入学当初からコロナ禍のために多くの制限があった学年で、当たり前の中学校生活ができず、先輩方と比べると思い出も少ないのかもしれません。しかし附属中学校は、一つ一つの思い出をかけがえのない思い出に変えてくれるとともに、これから先、どんな時代になっても、どんな環境に置かれても、自分たちの力で未来を切り拓いていくことができるということを教えてくれました。

附属中学校では、行事や授業などの様々な場面で「主体性」がとても大切にされています。自分の意思を言葉にし、表現することで仲間や先生方と共有し、たくさんのことに挑戦することができるのです。企画や運営など、全てのことを自分たちで創り上げていく附中祭「春」の体育大会。学級が一体となって一つの美しいハーモニーを奏でる「秋」の合唱コンクール。どちらも成功と失敗を繰り返しながら成長することができ、徐々に思いが形になっていくことの喜びや達成感はとても大きいです。

「主体性」が大切にされているのは、行事だけではありません。「附中の授業は生徒が創る。」という言葉があります。その言葉のとおり、附属中学校では、生徒一人一人が活発に意見を述べ、また、仲間の意見を傾聴して、学びを深め続けます。一人一人に個性があり、異なる考えがあり、ほっとするような発見の連続です。

これらは、附属中学校の生徒、附中生だからこそできることです。附中祭「春」や「秋」で、一つの目標に向かって、一人残らず全員全力で挑戦すること、生徒会選挙や学級委員にたくさんの候補が集まり、積極的に参加すること、考査前や受験前の休み時間には、勉強する人が次々と集まり、教え合うこと。これらは全て「真面目であることが大切にされる」附中ならではの風景です。

私の場合は、生徒会書記として、学校全体の運営にも携わり、学校生活の中で培ったことばの力でメッセージを発信することができました。学級でも、部活動でも、生徒会でも、互いに個性を認め、助け合い、挑戦し続けられる仲間といられた附属中学校での３年間は、私の人生の宝物です。

皆さんも、このような最高の環境で、最高の先生方や仲間と出会い、最高の中学校生活を送りませんか。心震える附中讃歌が未来へと受け継がれていくことを願っています。

在校生からの一言

山本　壮真さん（1年）

入学式の日、僕はこれからどんな学校生活が始まるのかというわくわくと不安を感じながら登校しました。そして、入学式での生徒会の皆さんの堂々とした立ち居振る舞いや先輩方の迫力ある合唱に、不安はなくなり、憧れや期待が膨らんできました。そんな附属中学校での生活がスタートし、僕のなりたい姿が決まりました。それは、人の役に立てるようになることです。些細な困ったことにもかけつけて、みんなから「ありがとう」と言われる、それが僕のなりたい姿です。その実現に向けて、三つの目標を立てました。

一つ目が知識です。ここ数年はコロナの影響もあり、予測困難な課題が社会にあふれています。そのような課題を解決する力を養うためにも、知識は欠かせません。ただ、一方的に知識を与えられても定着させることができません。附属中学校には大切にされている多くの言葉があります。その一つが、「授業は生徒が創る」です。授業中に飛び交う言葉と言葉を自分たちでつなぎ、解決できたときの達成感は言葉では表せません。自分が授業を創る主役になろうとすることで、自然と知識が定着するとともに、新たな課題を解決するためにより多くの知識を得たいと思えるようになりました。授業を創る一員となるために、僕は本を一日一冊読んだり、英語のラジオ講座を聴いたりと、もっと幅広くたくさんの知識をインプットしていきたいです。

二つ目は信頼です。信頼がなければ、みんなから頼られることはありません。そのためにも、日頃から先生方や先輩だけでなく、附属中学校に来校される方々に対する礼儀はもちろん、謙虚さを忘れずに多くの人と関わっていきたいです。そして、正義感を持って行動することで、信頼を築いていこうと思います。

そして、三つ目は行動力です。全体の状況を把握し、その場に応じた適切な行動をとることが、集団を動かすためには必要です。附中祭「春」（体育大会）の練習やよりよい学校づくりのための実行部活動での、先輩方の先を見通した計画や常に俯瞰した視点で全体を把握し、優しく明るく振る舞う姿に憧れ、追いつくために、状況を素早く把握する目を、指示を的確に把握する耳を育てていきたいです。

未来の自分がどんな風になっているかなんて誰にも分かりません。しかし、この附属中学校には、一人一人の個性を理解し、互いに補い合い、優しく寄り添ってくれる先輩や仲間がいます。僕のなりたい姿を実現するためには、多くの課題があります。その課題を「光と力と望みと」という校訓のもとで、一つ一つ達成していけば、自分のなりたい姿に必ずなれると確信しています。皆さんも、附属中学校で自分のなりたい姿を見つけ、実現させませんか。

波多野　奈那さん（1年）

入学式の天気は晴。クラスの人たちは明るいだろうか、先生は面白いだろうかという期待。そして、友達はできるのか、勉強についていけるのかという不安。青空を隠す複数の雲は、まさに私の心と同じでした。

しかし、附属中学校での生活が始まると、附中生としての誇りや級友の良さをたくさん見つけ、少しずつ不安がなくなり、期待に変わっていきました。

「附中の授業は生徒が創る」

これは、附属中学校で大切にされている言葉の一つです。自分たちで挑戦したいことや興味があることを見いだし、一人一人が考え、それを級友と共に協力しながら解決していくのです。私のクラスでは、誰かが分からないときは納得するまで助け合い、結論に向けて導いていきます。そんなクラスだからこそ、「途中で分からなくなっても、誰かが助けてくれる」という雰囲気が生まれ、自分の意見を出しやすくなりました。

また、私が驚いたのは、附中生全員が、仲が良いことです。４月中旬から、附中祭「春」（体育大会）の練習が本格的に始まります。生徒会が中心となり、生徒自らの力で創り上げる附中祭「春」を目指し、附中生全員が団結して取り組みます。特に、創作演技の練習では、少ない練習時間を有効活用できるように、３年生が中心となって１・２年生を力強くリードしてくれます。その真剣な姿は、とても頼もしく、私の憧れになりました。また、部活動見学に訪れた際には、どこの部活も、学年や男女関係なく、仲良く真剣に活動に取り組んでいました。まさに、学年を越えて附中生が一丸となり、附属中学校を創っています。この仲の良さは、附属中学校の誇りだと感じました。

いつか憧れを実現するために、今をどう過ごすべきなのか。まずは、多くの附中生と関わることで信頼関係を築きながら、どんなことにも挑戦していくことで自己を磨きたい。こんな思いを実現できると思わせてくれるのも附属中学校です。

今の私の心は快晴。さあ、私と一緒に附中丸に乗り、附属中学校でわくわくする旅を始めませんか。

長崎大学教育学部附属中学校
〒852-8131 長崎市文教町 4-23
TEL.095-819-2277　FAX.095-819-2279
ホームページアドレス
https://www.jhs.edu.nagasaki-u.ac.jp

令和６年度

学　校　案　内

光と力と望みと

光のさすところは、明るくそして温かい。
力は、自らの人生を切り開く心身の根源力である。
望みは、人生の夢であり目標である。

長崎大学教育学部附属中学校